論　　文

可見元代石刻拓影目録稿・三続（成宗年間）

可见元代石刻拓影目录稿・三续（成宗年间）

森田　憲司*

Kenji MORITA

「可見元代石刻拓影目録稿」の３回目として、元貞・大德年間、つまり成宗朝の部分を掲載させていただく。『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編』元朝３巻のうち、１冊目の第48巻が収録の対象とした時代が、これでカバーできた。

この目録は、現時点で日本国内において、図録類やWEB上の画像などによって拓影を見ることのできる元朝石刻についての目録であり、その作成の趣旨については、第１回目の冒頭に書いた「この目録について」を参照していただきたい。当然のことながら、この作業を進める中で、新たに入手可能となり、目にすることのできた石刻関係書の新刊も少なくないことは、森田が『13、14世紀東アジア史料通信』に連載している「近着石刻関係書所収元代石刻リスト」で紹介するとおりである。それらに所載のものについても、この目録の収録対照としなければならないのだが、前回からの継続性を考え、今回についても、対象文献を前回と同じものとすることとした。ただし、北京図書館がWEB上に公開している石刻画像「中国碑帖菁華」（以下、「菁華」と略称）は、上記の新着資料紹介では取りあげておらず、また収録されている新資料が多いので、このリストの対象としている。

今回の目録においても、これまでと編集の方式には大きな変化はない。利用の便を考えて、「凡例」は再度掲載しておくが、若干表現を改めただけで、ほぼ同文である。ところで、「凡例」にかかわる問題として石刻の命名があり、これには検討すべき点が多いことは、前２回でも述べたが、繰り返しておく。

まず第一に、新たに命名するのか、原石にある名称をそのまま取るのかについては、一長一短がある。後者はたしかに厳密ではあるが、その一方でしばしば長文であって、一見しただけはその石刻の内容を把握しにくく、実務的ではない。「菁華」においては、以前は、目録での表示は簡潔な名称を命名し（拓片題名）、データとして原石にある表記を注記していた（根拠題名）。しかも、検索では、「根拠題名」中の語からも当該の石刻が表示されるという方式をとっていて、前回のこの目録では、合理的な方法ではないかと紹介した。しかし、現在では「其他題名」という項目に代わってしまい、新収の石刻については、それも入力されていない。煩瑣なるがゆえであろうか。一方、国内の公刊された拓本目録で一番整っている東洋文庫の場合、凡例の標題の項

2010年９月10日受理　*文学部史学科教授

に「本文頭題もしくは碑額題を標出した」とあり、さらに「文頭原題」の項を設けている。これも穏当な方式ではある。ただし、標題として何を用いたのかについて、個々の項目で注記されてはいない。おそらくは、頭題を標題に使用した場合はあらためて何も注記しないということなのだろうが、その旨の記述は見当たらない。筆者の作成する目録においても、今後とも検討していきたいと考えているが、もし、新たに命名するとすれば、あらためて原則を作る必要があり、その前提となる石刻の種別とその呼称については、石刻学の最も基本的な項目であるにもかかわらず、清朝石刻学以来、論者ごとにすべて異なっていると言っていいほどだから、それはそれで一朝一夕にできることではない。

さて、今回独自に発生した問題を２つ挙げておきたい。

まず、人名比定が必ずしも十分ではない。筆者の能力の限界もあるが、たまたま画像が不鮮明であったり、小さかったりした場合が重なったことにもよる。

また、この時期に特有の問題として、大徳11年の孔子加封の聖旨を刻した石刻の問題がある。この聖旨を刻した石刻が多数現存することはよく知られているが、これの取り扱いについては、次のような方針とした。まず碑名については、各碑に篆額などがある場合はそれに従い、とくに無い場合は「加封孔子聖旨碑」で統一する。次に年代については、もし題記や題名に日付がある場合は、その箇所に配列し、とくに無い場合には11年７月に配列した。従って、この聖旨の石刻が一箇所に集まる形にはなっておらず、かなり後の時期までこの碑が散在することとなる。

ところで、今回収録したのが、160件弱。期間は13年間であるから、それ以前に比して拓影が現存する石刻の増加したことがわかる。理由の１つには「菁華」に新資料が多く登載されていることがあるだろうが、経験的には元朝後半になるほど、残存する石刻は増えていく。これまで３回を通算して、約430件、元朝はあと60年続く。今後新しく出現するものを考えれば、まだ1000件ほどが残っていることになる。このペースでは、この目録の完成に10年近くはかかりそうだ。基本データは入力済みとは言うものの、新収石刻の追補、改訂などの目録の整備の必要もある。ちなみに、今年度の研究助成の計画にあった、報刊所載の新出石刻については、『中国考古学年鑑』所載のものを中心に、雑誌などから資料収集をおこなったが、今回の目録には反映させず、次の機会に計画している国初から成宗年間までの補訂総集編の中で扱いたいと考えている。いずれにせよ、前回も述べたように、公開の方策について検討をおこなわなければならない段階にきていると感じている。

目録凡例

名称

次の順序で採用する。　首題、額、掲載文献の命名、森田の命名

同じく原石にあるタイトルとして、首題と額があるが、首題を額よりも優先するのは、額のない石刻の方が多い上に、額そのものやその拓本が失われたり、取り違えられたりすることがままあるためである。

墓碑、墓誌などのように個人にかかわる石刻の場合は、諱を（ ）に入れて付記する。

名称根拠

名称の欄に記した名称の根拠となったものを表示する。掲載文献の命名によった場合はその略称を用いた（拓影出典目録参照）。「森田」は、この目録のために森田の命名したものである。

年代

日付の決定と表示の原則は、次のとおりとした。

文中にある一番新しい日付を取ることを原則とする（追刻は除く）。墓誌の類については、被葬者の没年に配列するという考え方もあるが、石刻の成立と時間差がある場合もあり、その方式は取らない。

命令文などを刻したもので、立石の年代が不明の場合は、文書の日付とし、複数刻されている場合は、最新のものに拠る。各命令文の日付を注記欄に載せる。

干支表記による表記は年に換算し、月日についても、干支表記は数字に直す。ただし、憲宗以前の干支表記のものは干支を併記する。

月、日の別称のうち、確定できるもの（孟春、仲夏、望日、既望、七夕、重陽など）は、数字に換算して表記する。ただし、問題の残るものについては、注記欄に原表記を掲載する。

年によって動くもの（二十四節気など）は、それを表示する。

たんなる重刻（たとえば、元碑を明の萬暦年間に再刻したもの）については、その内容の時期に配列し、※をつけるとともに、注記に重刻の日付を入れる。ただし、過去の朝代の石刻を元朝時代になって重刻したものについては、重刻された時期に配列し、その旨を注記する。

配列は、日まで比定できるもの、月まで、年まで、の順とする。

年代根拠

上記の年代比定の根拠となったものを記す。原則として、「立石」、「建」、「記」、「祔」、「葬」など、石刻中で用いられている表現をそのまま用いた。「日付」は石刻末に日付のみあるもの、「文書」は刻された文書の日付に拠ったもの、「文中」は、文中にある表現から比定したもの、掲載文献の年代比定に拠った場合は、その略称を記した。

所在地

拓影掲載文献の表記に従い、省名（北京を含む）と２字表記の県名で掲載する。この場合、新旧の地名が混在することはやむをえないものとする。また、石刻の移動については配慮しないこととする。

所載

複数の文献に所載の場合は、採録文献の対象範囲の広い文献から並べる。「菁華」については、最後とする。

使用した文献と略号の一覧はこの文末に掲載した。

その他

文字は常用漢字を用いることとする。

拓影出典目録

※使用した略称のあいうえお順、数字の種類を注記した。今回収録すべき石刻のなかった文献については、＊を付している。

于右任　西北民族大学図書館于右任旧蔵金石拓片精選　上海古籍出版社　2008＊
　図版番号

華山　華山碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1995　図版番号　＊

漢中　漢中碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1996　図版頁　＊

翰墨　翰墨石影　河南省文史研究館蔵搨片精選　広陵書社　2003　冊・頁

咸陽碑刻　咸陽碑刻　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　2003　図版番号　＊

咸陽碑石　咸陽碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1990　頁　＊

戸県　戸県碑刻　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　2005　図版頁

山西　山西碑碣　山西人民出版社　1997　頁

輯縄　洛陽出土歴代墓誌輯縄　中国社会科学出版社　1991　頁

新出　新中国出土墓誌　図版番号
　「新出陝西２」のように巻名を表示した

西南　中国西南地区歴代石刻匯編　天津古籍出版社　1998　冊・頁

西北　中国西北地区歴代石刻匯編　天津古籍出版社　2000　冊・頁

陝西　陝西碑石精華　三秦出版社　2006　図版番号

泰山　泰山石刻大全　斉魯書社　1993　冊・頁　＊

涿州貞石　涿州貞石録　北京燕山出版社　2005　頁

澄城　澄城碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　2000　頁　＊

重陽　重陽宮道教碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1998　図版頁

東洋　東洋文庫所蔵中国石刻拓本目録　東洋文庫　2002
　※図版が掲載されているわけではないが、国内で閲覧可能ということで収録する。

道家　道家金石略　文物出版社　1988　頁　＊

白話　元代白話碑集録　科学出版社　1955　図版番号　＊

碑林　西安碑林全集　広東経済出版社　1999　冊・頁

北京精粋　北京文物精粋大系・石刻巻　北京出版社　2004　図版番号　＊

北京文研　北京市文物研究所蔵墓誌拓片　北京燕山出版社　2003　頁

北図　北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編　中州古籍出版社　1989－91　冊・頁
　ただし本目録の対象となるのは第48冊のみ

楡林　楡林碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　2003　頁　＊

洛陽名碑　洛陽名碑集釈　朝華出版社　2003　頁

羅常培　八思巴字与元代漢語（増訂版）　中国社会科学出版社　2004　図版番号　＊

楼観　楼観台道教碑石　三秦出版社（陝西金石文献匯集）　1998　図版頁

拓影画像データベース

人文　京都大学人文科学研究所所蔵石刻拓本資料

http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/

京都大学人文科学研究所附属漢字情報センターが提供する画像データベース。きわめて鮮明な大型画像を見ることができる。このデータベースの公開が石刻研究を大きく進展させたことは、これまでにも紹介してきた。付されている番号を表示したが、各番号の頭にある「GEN」は略した。

菁華　碑帖菁華

中国国家図書館所蔵の拓本画像データベース。国家図書館の検索サイトの中の「図片専欄」にある。収録対象とする期間について、年代検索をおこなって、対象資料を採録した（2010年８月中旬に確認）。ただし、総目的なものが見出せないので、完全にチェックできているかどうかは不明である。なお、今回の目録の対象範囲では､「北図」に載せられていて「菁華」にないものはない。また、石刻名の一部で検索可能なので、とくに番号などは付していないが、命名に問題無しとしないことは上述した。画像については、大小精粗にはばらつきがあり、内容判読が可能なだけの解像度がないものも含まれる。近年収録点数が増えており、新収録のものについては画質もよく（カラー画像のものもある）、利用価値が高いが、画面構成上に難があり、すべての拓影が見やすいわけではない。年代比定などに関しては、「北図」そのままでなく修正が加えられていることもあるが、すべてが正しいわけではない。アドレスは変更されることがあるようなので、省略する。

名称	名称根拠	年代	年代根拠	省	県	所載	注記
平江府廟学聖旨碑	東洋	元貞元年正月	題名日付	浙江	蘇州	東洋2306	上截至元31年聖旨、下截題名
古樓観繋牛柏記	首題	元貞元年４月	立石	陝西	周至	北図48・141、西北07・151、碑林194・0803、楼観30p、菁華	
妙応蘭若塔記	首題	元貞元年５月13日	記	雲南	昆明	北図48・142、西南14・19、大理１・45、菁華	
騶孟子廟碑銘	首題	元貞元年８月１日	立石	山東	鄒県孟廟	人文047X	
故親教璨公和尚塔銘	首題	元貞元年８月11日	建	甘粛	涇川	北図48・143、西北07・152、菁華	
大元清和妙道広化真人尹宗師（志平）道行之碑	首題	元貞元年８月15日	立石	陝西	周至	北図48・144、西北07・153、碑林194・0799、楼観31p、菁華	
大元雲南行省宣使張君（貞）之墓	首題	元貞元年８月18日	誌	河南	洛陽	輯縄758	
宣授太原路都僧録安公行碑	首題	元貞元年８月	立	山西	太原玄中寺	人文048X	
史杠題名	北図	元貞元年８月	本文	湖南	衡陽	北図48・145、菁華	
上海県学記	首題	元貞元年	文中	江蘇	上海	菁華	上半部のみ残る
后土廟重修記	首題	元貞２年１月15日	記	山西	郷寧	菁華	
扁鵲廟碑	首題	元貞２年６月	日付	河北	南宮	北図48・146（陽）、147（陰）、菁華（陽、陰）	
淇州文廟之碑	首題	元貞２年８月	建	河南	淇県	翰墨６・44	
大元重修古楼観宗聖宮記	首題	元貞２年９月９日	重立	陝西	周至	北図48・148、西北07・154、道家550p、菁華	中統４年の碑の重立
大元故京兆路知府劉公（尚）神道碑并序	首題	元貞２年10？月７日	日付	陝西	西安碑林	碑林030・2995	拓影不鮮明

重修康澤王廟碑	人文	元貞２年	人文	山西	臨汾	人文049X	
重修東嶽行宮廟記	首題	元貞３年正月３日	記	山東	曲阜	人文050X	
普明浄公（道浄）塔銘	首題	元貞３年２月４日	立	河南	武陟	菁華	
袁夢彪買地券	西南	元貞３年３月	造	四川	北陪	西南１・94	日の箇所が読めない
琴台詩并跋	北図	大德元年４月５日	跋	山東	単県	北図48・149、菁華	
府君崔公（珏）霊応之碑	首題	大德元年６月６日	記	山東	濰県	北図48・150、菁華	
琴台詩并跋	菁華	大德元年７月	題	山東	単県	菁華	
大元中山府大開元寺重修佛塔記（碑陽）	首題	大德元年９月	立石	河北	定県	人文052A（陽）、052B（陰）	季秋末旬
鈞州新廟学記	首題	大德元年10月	立石	河南	禹県	翰墨６・45	
都水監勾当官先兄墓誌（趙文煒）	首題	大德元年11月11日	葬	山東	東平	菁華	
故彰州主簿褚君墓銘	立石	大德元年閏11月24日	立石	山東	曲阜	人文051X	閏の確認
薊州平谷大興隆禅寺創建経蔵記碑	首題	大德元年12月	立石	北京	平谷	菁華	
大元故覃懐張夢臣（輔臣）壙記	蓋	大德２年２月27日	葬	陝西	西安	新出陝西２・344、碑林095・4777	
居竹記	首題	大德２年２月	北図	上海	松江	北図48・151、菁華	不鮮明
加封五鎮詔書碑（南鎮廟）	森田	大德２年２月	文書	浙江	紹興	北図48・152、菁華	
加封五鎮詔書碑（北鎮廟）	森田	大德２年２月	文書	遼寧	北鎮	東洋2307、2308	
許州重修孔子廟記	首題	大德２年２月	記	河南	許昌	翰墨６・46	
御香使申德茂題記	森田	大德２年５月９日	文中	不明		東洋2309	
平江路重建至聖文宣王廟記	額	大德２年10月15日	記	江蘇	蘇州	東洋2310	
韓魏王新廟碑	首題	大德２年11月26日	立石	河南	安陽	人文053X、翰墨６・47	
宣字曲道明	首題	大德２年12月20日	上石	山東	青島	労山136（写真）	

終南山元始玉清宮記	首題	大徳２年	立石	陝西	周至	楼観32p	
玄門掌教大宗師存神応化洞明真人祁公(志誠)道行之碑	首題	大徳３年３月15日	立石	河北	赤城	菁華	
机主王先生(明道)墓誌銘	篆額	大徳３年４月辛酉	立石	山東	曲阜	人文004B、菁華	
尊経閣記	篆額	大徳３年４月14日	立石	山東	済寧	北図48・153、菁華	
普恵大師道公庵主塔銘	首題	大徳３年４月清明日	建	河南	登封少林寺	人文055X、翰墨６・48	
重修晋荀大夫廟碑銘并序	首題	大徳３年５月15日	立石	山西	郷寧	山西267	
故大師白氏墓碑銘並序	首題	大徳３年５月18日	卒	雲南	大理	大理１・46(陽)、47(陰)、西南15・18(陽)、19(陰)	
上清正一宮聖旨碑	人文	大徳３年５月	文書	河南	安陽	人文054X	上から猴児年６月14日聖旨、猴児年７月28日聖旨、鶏児年２月１日聖旨、大徳３年５月聖旨
佛座題字	森田	大徳３年５月	刊	不明		菁華	
大元加號之碑(永沢至宝王)	篆額	大徳３年８月	文書	山西	解州塩池	人文056X	
大元加號之碑(広済恵康王)	篆額	大徳３年８月	文書	山西	解州塩池	人文057X	
本寺(大勝寺)修造記	首題	大徳３年10月１日	日付	雲南	昆明	大理１・48、西南15・20、菁華	旦日と見えるが、欠落があって、日付の根拠不明
蕭山県新文廟碑陰記	首題	大徳３年10月４日	立石	浙江	蕭山	菁華	
蕭山県重建大成殿記	首題	大徳３年10月	記	浙江	蕭山	北図48・154、東洋2311、菁華	
皇恩特賜聖旨訳本	篆額	大徳３年12月	文書	北京	平谷	菁華	漢蒙表裏合璧碑、大徳３年６月12日聖旨
馬師父答	首題	大徳４年正月	書	山東	青島	労山138(写真)	
霊峰道院邱真人詩	労山	大徳４年２月18日	書	山東	青島	労山134(写真)	

范文正公書伯夷頌	篆額	大徳４年２月	北図	江蘇	呉県	北図48･155、菁華	年代根拠不明
兗州董師父贈雲岩子詞	労山	大徳４年３月３日	日付	山東	青島	労山132（写真）	
単州重修琴台記	首題	大徳４年３月12日	立石	山東	単県	北図48･157、菁華	
丹陽師父題長生師父沁園春	首題	大徳４年３月16日	書	山東	青島	労山143（写真）	
重修南山寺記	横題	大徳４年３月	立石	広西	貴港	西南５･58	
郁氏少林寺皷樓石柱記	人文	大徳４年７月	日付	河南	登封少林寺	人文058X	
壽聖寺記	菁華	大徳４年８月15日	記	山東	費県	菁華	
□□［昌平］県狄梁公祠堂記	首題	大徳４年閏８月１日	記	北京	昌平区	北図48･158（陽）、159（陰）、菁華（陽、陰）	
大元重建会霊観記	首題	大徳４年閏８月15日	立石	陝西	周至	北図48･160、西北07･155、碑林194･0807、楼観33p、菁華	下欠、菁華不鮮明
重修太初宮記	首題	大徳４年９月13日	日付	河南	霊宝	菁華	日付部分不鮮明
行宮聖蹟碑	菁華	大徳４年10月２日	立石	河北	無極	菁華	
靈巖寺第三十一代桂菴達公禪師（覚達）道行之碑	首題	大徳５年３月１日	立石	山東	長清霊巌寺	人文（陽、陰）059A　059B、060X（陽）、北図48･161、菁華	
重建雷塘昭佑王廟之記	首題	大徳５年４月	立石	江蘇	江都	北図48･162、菁華	
王顕等施鈔題名	森田	大徳５年４月	文中	陝西	韓城	菁華	
安陽重修漢尚書欒公廟記	首題	大徳５年11月19日	刊	河南	安陽	翰墨６･49	
安西王令旨（爛柯山仙洞）	森田	大徳５年11月	立石	河南	新安爛柯山	菁華	パスパ１行、元貞元年３月令旨大徳５年冬至立石
真大管領諸路道教所榜示（爛柯山洞真観）	森田	大徳５年晦日	刻石	河南	新安爛柯山	菁華	
大元重建至聖文宣王廟碑	首題	大徳５年	北図	山東	曲阜	北図48･163、菁華	北図が大徳５年秋とするのは、文中の「告成」の時期によるのであろうか

大徳壬寅年龍床石題刻	西南	大徳６年正月	文中	四川	豊都	西南１・97	大徳壬寅孟春
大元重刊上清太平宮碑之記	首題	大徳６年２月16日	記	陝西	周至	碑林194・0810、菁華	上截重刊記、下截端拱元年７月９日原刻
孫沔游真仙岩題詩	西南	大徳６年４月25日	文中	広西	融水	西南５・59	
石氏少林寺鼓樓石柱記	人文	大徳６年６月	日付	河南	登封少林寺	人文061X	
陳氏墓碑之記	首題	大徳６年11月19日	立石	山東	滕県	北図48・165、菁華	
有元故鎮国上将軍呉江長橋行都元帥沿海上万戸寧公(玉)墓誌銘并序	首題	大徳６年12月13日	葬	河南	孟県	新出河南１・219、菁華	菁華作“玉世”
寧玉神道碑額	森田	大徳６年12月？	森田	河南	孟県	翰墨６・53	
□□馮君(士安)壙記	首題	大徳７年２月３日	祔	陝西	西安	北図48・166、人文062X、西北07・156、菁華	２月辛酉
潞州防禦□□□□□公(兀林答阿魯元剌)神道碑	首題	大徳７年３月１日	日付	山東	寿光	北図48・167、菁華	
大元加封桑乾河神顕応洪済王廟碑	額	大徳７年５月	日付	不明		東洋2312	
大元保定路易州定興県金臺郷百□里東嶽天斉大生仁聖帝廟碑記	首題	大徳７年６月22日	立石	河北	定興	菁華	碑陰：諸色人匠題名
終南山古楼観大宗聖宮重建文始殿記(陽)	首題	大徳７年９月15日	記	陝西	周至	北図48・168(陽)、169(陰)、170(額)、楼観34p、西北07・157(陽)、158(陰)、陝西222、碑林194・0813、菁華(陽、陰)	
大元国大寧路義州重修大奉国寺碑	題	大徳７年９月	立石	遼寧	義県	北図48・170(額)、171(碑身)、東洋2313(碑陰あり)、菁華	
宣授扶宗弘教大師釈源宗主江淮諸路都総摂鴻臚卿贈司空護法大師龍川和尚舎利塔志	首題	大徳７年10月10日	誌	河南	洛陽白馬寺	輯縄759	
安西王令旨(合陽県諸寺)	森田	大徳７年11月22日	文書	陝西	合陽	菁華	

僧智利建観音圖讃	人文	大徳８年４月	立石	河南	登封少林寺	人文063X	
特賜仏性円融崇教大師（定演）寿塔記	首題	大徳８年４月	建	北京	海淀区	北図48・172、菁華	
紹興路増置義田之記	篆額	大徳８年４月	記	浙江	紹興	北図48・173、菁華	
有元故医隠賈君（徳全）阡表	首題	大徳８年２月癸卯	立石	北京	海淀区	菁華	碑陰宗派図
世祖平雲南碑	首題	大徳８年	文中?	雲南	大理	北図48・174（額）、175（陽）、176（陰）、大理１・53、西南14・20、菁華	不鮮明
護必烈大王令旨碑（易県興国寺）	森田	大徳８年	北図	河北	易県	北図48・177、菁華	文書発給の年が甲辰と見える、1244の可能性はないか
大徳洪水題刻	出典	大徳８年	文中	四川	彭水	西南１・95	甲辰夏とあり
關帝廟碑（碑陽）	人文	大徳８年	人文	遼寧	遼陽	人文064A（陽）、064B（陰）	不鮮明
莱州神仙洞給付	菁華	大徳９年正月（仮）	文書	山東	掖県	菁華	乙巳年正月付披雲真人、“北図”、“道家金石略”は1245年とする、従うべきか
大元国師法旨	篆額	蛇児年３月23日	人文	山東	長清	北図50・143、人文065X	蔵漢合璧、人文の年代比定による
請欽公禪師住持棲巖寺疏	菁華	大徳９年３月	菁華	山西	永済	菁華	文書には「乙卯年12月」とあり、ここでは、菁華の比定に従う
吉公論主塔銘	菁華	大徳９年４月18日	記	不明		菁華	宗派図
元少中大夫四川道宣慰副使僉都元帥府事郝公（天澤）墓誌銘	首題	大徳９年８月10日	葬	陝西	三原	新出陝西１・173	
中書礼部符文	横題	大徳９年８月15日	日付	河北	賛皇	北図48・178、菁華	大徳８年12月13日の文書、立石関係の箇所は不鮮明
大元真定路宣差帖木児通議公恵政碑銘并序	首題	大徳９年８月	立石	河北	新樂		
定興県三皇廟記	首題	大徳９年９月	立石	河北	定興	菁華	
悟公大師霊塔	額	大徳９年11月18日	記	不明		北図48・179、菁華	宗派図

大元国大都路（９字不明）普明寺新建道場記	首題	大徳９年12月	置	河北	安次	北図48･180、菁華	
崇国寺退隠僧幢	森田	大徳９年		北京	城内	新出北京71	７行のみ残存、文中に大徳９年３月３日の日付があるが、卒日か
昭勇大将軍萬戸張公（張弘綱）墓誌銘	首題	大徳９年	日付	北京	豊台	北京文研74	
漁荘記	首題	大徳10年閏正月中澣？	立石	河南	安陽	北図48･181、菁華	
故承事郎晋寧路同知解州事徐公（寛）墓誌銘	首題	大徳10年２月２日	建	陝西	興平	新出陝西１･174	
聖旨禁約暁諭碑	人文	大徳10年２月	文書	山東	曲阜顔廟	人文066X	
霊巌平公（浄平）管勾勤跡之銘	首題	大徳10年３月27日	立石	山東	長清霊巌寺	北図48･183、菁華	
□院林公大禅師道行之記	首題	大徳10年３月	北図	河北	行唐	北図48･182、菁華	文中に卒日として３月16日が見える
張楫妻高氏墓誌	菁華	大徳10年２月20日	祔	陝西	西安	陝西223、菁華	
清真庵順興李真人成道記	題	大徳10年４月15日	上石	陝西	戸県	戸県50p	
関帝廟碑	東洋	大徳10年４月	立石	遼寧	遼陽	東洋2314	丙午の文字あり
玄明文靖天楽真人李公（道謙）道行銘并序	首題	大徳10年５月	建	陝西	戸県	北図48･184（篆額）、185（碑身）、西北07･159（篆額）、160（碑身）、陝西224、碑林194･0817、重陽33p、菁華	
大元保定路易州定興県瓔建大悲閣碑	首題	大徳10年５月	立石	河北	定興	菁華	
□□岳太霊観□□劉真人伝	首題	大徳10年７月２日	日付	河南	登封嵩嶽	北図48･186、菁華	
宣聖五十一代孔元質墓石	森田	大徳10年７月	立石	山東	曲阜孔林	人文067X	
大元故奉直大夫南陽屯田副総管張公（謙）墓誌銘	首題	大徳11年８月28日	葬	陝西	西安	菁華	
莱州城隍廟碑	首題	大徳10年９月	日付	山東	莱州	菁華	

曾祖処士畢公墓石	森田	大徳10年９月	立石	山東	曲阜	菁華	
大元故忠勇校尉曲阜県尉畢公墓誌銘	首題	大徳10年11月	立石	山東	曲阜	菁華	
王重陽詩歌碑	重陽	大徳10年10月15日	刻	陝西	戸県	重陽32p	大徳３年からの日付が見出されるが、大徳10年下元刻とあり
全真開教秘語之碑	首題	大徳10年10月15日	書？	陝西	戸県	碑林194・0821、重陽31p、陝西226、菁華	下元
章二十九等開井記	菁華	大徳10年10月	日付	江蘇	蘇州	菁華	
玩鞭亭詩刻	北図	大徳10年12月	北図	安徽	蕉湖	北図48・187、188、菁華	「大徳丙午立春」と跋にある
大元真定路元氏県開化寺重修常住七間佛殿記	首題	大徳10年12月乙巳	建	河北	元氏	菁華	
梁国棟題詩并跋	西南	大徳10年	文中	広西	融水	西南５・60	□月甲子
棣州三学資福禅寺蔵経碑銘	首題	大徳11年正月	日付	山東	恵民	菁華	日の部分欠
仁宗皇帝讃達磨大師渡江圖	人文	大徳11年２月22日	立石	河南	登封少林寺	人文068X	
宣授少林住持達公（永達）禪師塔銘	首題	大徳11年４月	立石	河南	登封少林寺	人文069X	
故釈源開山宗主贈司空護法大師龍川大和尚遺嘱記	首題	大徳11年４月	立石	河南	洛陽	北図48・189、菁華	
加封孔子聖旨碑		大徳11年７月19日	文書	北京	東城国子監	人文070X、菁華	菁華は碑陰も載せる
加封孔子聖旨碑		大徳11年７月19日	文書	河北	蔚県	北図48・190、菁華	
大元加封聖旨	篆額	大徳11年７月	文書	山東	泰安	人文071X	
加封孔子聖旨碑		大徳11年７月	文書	内蒙古	厚和	人文073X、菁華	
加封孔子聖旨碑		大徳11年７月	文書	不明		東洋2315	聖旨のみ、文庫の保管用原封筒に「朔□城東・・」とメモあり
加封孔子聖旨碑		大徳11年７月	文書	不明		東洋2316	碑陰には「至正」の日付が見えるが、別の碑に転用かも

加封孔子聖旨碑		大德11年７月	文書	江蘇	平江	東洋2317	記は至大３年７月
加号詔碑	篆額	大德11年７月	文書	河南	新郷	翰墨６・50	
加封孔子聖旨碑		大德11年７月	文書	山西	平定	菁華	
加封孔子聖旨碑		大德11年７月	文書	山東	滕県	菁華	
加封孔子聖旨碑		大德11年７月	文書	河南	扶溝	菁華	
大元加大成詔	額	大德11年７月	文書	山東	広饒	菁華	古文
秋風辞刻石	北図	大德11年８月15日	日付	山西	汾陽	北図48・191、山西270、河東水利、菁華	大德丁未中秋日
加封孔子制詔碑（漢蒙両文碑）	人文	大德11年９月	文書	山東	曲阜孔子廟	人文072X、北図48・192、菁華	蒙漢合璧
加号宣聖大成之碑	篆額	大德11年９月	文書	河南	渉県	翰墨６・51	
大元加号大成之碑	篆額	大德11年９月	文書	河北	定県	菁華	上截：パスパ、下截：漢文
大元光禄大夫平章事商議陝西等処行中書省事賀公（仁傑）墓誌銘并序	題	大德11年９月壬午	葬	陝西	戸県	戸県51p、陝西225	
聖旨禁約暁諭碑	人文	大德11年10月	文書	山東	曲阜顔廟	人文074X、075X、076X、北図48・193、菁華	
玉陽体玄広度真人王宗師（処一）道行碑并序	首題	大德11年10月	日付	陝西	周至	碑林194・0825	拓影不鮮明なため、「道家」を参照
有元加封孔子大成誥	篆額	大德11年12月	文書	不明		菁華	
加封孔子聖旨碑		大德11年	文書	不明		菁華	「宝」字あり、題名らしきものがかすかに見える
太上玄元道德経（趙孟頫書）	首題	大德11年	書	山東	青島	労山100（写真）	
加封孔子賛	菁華	不明		不明		菁華	不鮮明なためよくわからないが、大德加封碑の碑記の類ではないだろうか
大德太平橋題字	菁華	大德中	菁華	江蘇	常州	菁華	

付記

この目録は、平成21年度の奈良大学研究助成、「中国報刊所載元代石刻目録の作成」および、平成20年度～22年度科学研究費基盤研究Ｂ「中国社会へのモンゴル帝国による重層的支配の研究元朝史料学の新展開をめざして」（研究代表者村岡倫龍谷大学教授）の分担研究者としての成果の一部である。さらには、過去の科学研究費や奈良大学研究助成などの助成金による文献の集積が基礎となっている。